

第3回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1 開催日時

平成26年3月13日(木) 13時30分～15時30分

2 開催場所

中部森林管理局 局長応接室

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) 情報交換等
- (3) その他

4 委員意見等

- ・ 2020年までに国産材自給率50%を目指し、品質の高い商品を提供したいと考えている。我々としてもベストな状態に向かっていきたい。
- ・ 原木が手に入らずマーケットに迷惑をかけている。値段が高くても買うというお客様にも待っていただいている。このままでは、国産材へ引きつけたものが離れていってしまう。長期的な需給バランスがとれる施策はないものか。
- ・ 秋頃から川下より急に材が欲しい欲しいと言われた。今欲しいから直ぐにと言われても、なかなか難しい。先を見通した情報発信をお願いしたい。(山への情報が欲しい)
- ・ 生産業者は切り捨て間伐に走ってしまったので、生産量が上がらない状況が見受けられた。また、国有林での分収育林等の立木販売にも、人がいなく入札に参加できなかった。
- ・ 供給調整については結局、結果論での話になってしまう。結果を受け止め、どう進むべきかが大切。
- ・ 現段階で国産材の受け入れ体制は整っている。だが、価格が上がりすぎると外材と競合する部分でどうなるのか懸念される。
- ・ 国産材から外材へは変わらないのではないか。為替の影響もあり外材より国産材の方が価格競争力がある。
- ・ 外材は発注してから時間がかかる。その点、国産材は手当がしやすい。が、先の見込みが難しい。
- ・ パルプ材はバイオマスの波に乗った感があったが、納材先が遠距離では正直難しい。
- ・ 地域密着型で山へ返すシステムを作っていかなければならない。山林労働者の実態をつかむべき。機械化、機械化と言っても山の地形等もあり無理がある。
- ・ 労働形態も含めて考えていかないと山からの出材は安定しない。状況は好転しているのだろうと思っけていても、なかなか進まない。

- ・ 山仕事は人が大事である。教育センター的な育成の場を設けることはできないか。
- ・ 山で働く人の収入が低くては話にならない。昔は、夏は農業、冬は林業で同じ農家の人が働いていた。農林はもっと協調すべき。
- ・ 木材価格の上昇はある程度想定はしていたが、これほどの価格上昇があるとは読み切れなかった。今後は短期的に上下はあるものの、中・長期的には横ばいで推移していくのではないか。
- ・ 価格の維持は在庫である。在庫を誰が持つのが鍵。
- ・ ヒノキが何故下がったかという点、プレカット工法等により並材主体になったからである。良い丸太が必要なくなった。真壁工法を復活すべき。
- ・ 在庫は立木で行うべき。在庫を持てるのは立木だけ。しかし、立木は買ったら直ぐに材を搬出しなければ必ず赤字になる。

5 検討結果

中部森林管理局管内の現状と各委員からの意見等を総合的に勘案し、価格解析では各販売ブロックの木材価格において「定常範囲を逸脱する動き」が多く見られているが、全てが価格上昇での逸脱となっており、現時点において早急に国有林材の供給調整を実施する必要性はないものと判断した。